

光照寺旅行(信州・上越)

法話 二〇二八年十月十九日 於 赤倉ホテル(新潟県)

「これ猶師教の恩致なり」

佐々木玄吾先生 講述

光照寺旅行(信州・上越)

—— 法話 二〇二八年十月十九日 於 赤倉ホテル(新潟県)

「これ猶師教の恩致なり」

佐々木玄吾先生 講述

法話

佐々木玄吾と申します。今日、二十分間法話の時間を取っておりますので、お疲れのところすみませんが聞いてください。

皆さんにお配りしたコピーの資料は、私の家にある掛軸です。この軸に書いてあるのが読めないのです。この紙の後ろを見てください。後ろに書いてあるのがこの軸の内容です。これは『本願寺聖人御伝絵上本』覚如上人が書かれたもので『聖典』の七二五頁に載っているものです。一緒に読んで見ましょう。

本願寺聖人御伝絵上本（御伝鈔） 覚如上人著

大師聖人 源空 もし流刑に処せられたまわずは、われまた配所に赴かんや、もし

われ配所におもむかずは、何によりてか辺鄙へんぴの群類ぐんるいを化けせん、これ猶師教なほの恩致おんちなり。

(『本願寺聖人伝絵 上本』…『真宗聖典』七二五頁)

こういう内容です。それで講題は「これ猶師教なほの恩致おんちなり」という題で出しました。これは流罪という事でさえも師教というのは先生の教え、先生というのは法然上人ですね。先生の教えの御恩徳の極みであります、と言っているわけです。「大師聖人源空」というのは敬って言っているのです。本師聖人でもいいのですけれども、聖人の源空、法然上人のことです。「もし流刑に処せられたまわずは」、つまり法然上人は土佐に承元の法難で流されるのです。それが「処せられたまわずは」、「われ」というのは親鸞聖人、私もまた「配所に赴かんや」、配所というのはこの新潟に居多ヶ浜から竹之内草庵という、明日の午後に行く所ですね、そこに行くことになったのだ、と。そして「もしわれ」というのは親鸞聖人。「配所におもむかずは」とは、もし私がそういう流罪の地に

行かなかつたのならば「何によりてか」、どのような方法で、「辺鄙の群類を化せん」、
辺鄙とは都のかたほとりですね。鄙とは田舎。つまりこういう新潟の田舎の「群類」と
いうのは人々ということですよ。「化せん」という事が一番大事です。「化せん」とは教化
するという事です。教化するという事はどういう事かという、殻の中にある卵を温め
てですね、卵は殻の中に入っていますね。それを温めて殻が割れてヒヨコになる。そう
いうことを教化ということです。教育という事ではなく、人間の生まれ変わりという事を
言っているのです。そのことが「猶師教の恩致なり」。先生の教えの最高の御恩徳にな
るのだと。人間が教化されることが一番大事なことなのだ。そういうことを書いてあ
るのですね。

それで、この大師聖人も同じようなことを言われたのですね。結局、吉水の草庵が承
元の法難でみな破壊されるのでね。そこに居る源空は流されるわけです。その時になん
て言ったかという、都には念仏の教化が久しいからもうこれから土佐に行って田夫野
人に念仏を勧めることが年来の本意であることだ、と。だから自分は行くのだ。決して

止めてくれるな、と。ここで非常に面白いのは二人とも落ち込まないという事です。つまり自分の根拠を失って流されるという事は大抵落ち込むでしょ。自分の家屋敷をとられて、そして親しい人たちと別れて飛ばされることは大抵の人たちはペシヤンコになる。ところがですね、念仏の人はペシヤンコにならないのです。返って元気で喜びに満ち満ちてそこへ赴いて行くという、そういう力を持っているのです。それでそういう教化が出来ることが大変うれしいのだ。決して止めてくれるなと言って、法然上人も親鸞聖人も配所、流罪の地に行かれるのです。これはやっぱり念仏の人の力というのは物凄いものだと思うのです。だから私たちはそういう力をいただくわけですから大変なことなのです。

それで大体仏教というのは何かと言いますと、何だと思えますか。仏教というのは教えをただ覚えるという事ではなくて、結局自分が教化されると言うことが一番大事なことなのです。卵からヒヨコになることが一番。自分の事なのです。それで私たちにと

って「辺鄙の群類を化せん」とはどういう事だと思えますか。自分が「辺鄙の群類を化せん」とは自分にとってどういう事か。「辺鄙の群類を化せん」とは、何を教化することになると思いますか。これは皆それぞれに辺鄙の群類がいるのですよ。皆さんにも「辺鄙の群類を化せん」という使命を持っているのです。自分にとって「辺鄙の群類」とは何だと思えますか。それは自分の妻と子、家族の事なのです。蓮如上人はこのように言われました。

『わが妻子ほど不便なることなし。それを勸化せぬは、あさましきことなり。宿善なくは、ちからなし。わが身をひとつ、勸化せぬものが、あるべきか。』

（『蓮如上人御一代記聞書』・『真宗聖典』八六七頁）

つまり私たちにとって辺鄙の群類とは誰の事かというところ、我が妻子なのです。自分の妻と子供。女の人で言えば自分の夫と子供。そういうのが辺鄙の群類なのです。ところ

がその辺鄙の群類というものは教化しようとしてもなかなかこれは言うことを聞かないのですね。その点、今回感心したのは池田住職は病院に入って治療されておられますが、住職不在でこの旅が行われております。しかし池田住職のおかげで奥さんも子供さんもお孫さんも皆お念仏の人となつてここにいらつしやる。それは池田住職の教化のお蔭、勸化のお蔭。我が妻子を勸化されたお蔭です。私たちもそれに邁進しなくてはいけないと思うのです。結局、私たちの辺鄙の群類、私も親鸞聖人と同じようにお念仏の人となつて辺鄙の群類を教化する使命が私たちにあるのです。そこで辺鄙の群類を教化するという事にたいして、どういうことが一体大事なのか。それは念仏の教えを非常によく知つていなければ教化することは出来ないのです。しかし知っただけではどうにもならないのです。返つて反発をされる。もういいと。人間、自分自分でそれぞれ独立だから聞く耳を持たないわけです。いくら光照寺へ行つてお話を聞いてと言っても、誰も自分のいう事を聞かないでしょ、子供が。本当に核家族になつて自分のことは自分です。皆独立。だから家の中で一緒に勤行したりお念仏を称えたり、教えを聞いたり、そういこ

とがもうどんどんなくなってきたんです。しかし、それでは本当に困るわけですから教化するということは非常に大事なことです。そこでそれが何よりも大事だと。「これ猶師教の恩致なり」と私たちはそういう使命をもっているのです。それはなかなか誰もというわけにはいかないのです。私も娘が二人いるのですが、二人は一緒に聞法して喜んでくれます。今度帰ったら子ども会を日野のいずみ会館ですがその時には来て手伝ってくれたり、一緒に勤行したりお念仏を称えたり、教えを聞いたりして芋と一緒に食べると、合掌して食前食後の言葉を言ったりして、仏教の血筋というものを作ろうとしているのです。なかなか誰もがそういうわけにはいかないのです。しかし、困難な仕事をやろうとするのです。

ところで、親鸞聖人と法然上人の年齢の差ですね。いくつかと言いますと親鸞聖人が流罪になられたのは三十五歳です。法然上人は四十歳年上なので七十五歳です。年齢の差が四十違うのです。だから法然上人は円熟して色々な実績があつておられるのですが、

親鸞聖人にとってはまだやってみないので分らないのです。しかしそれでも先生というものを持っているから先生があるわけです。親鸞聖人には。先生の後姿を見ているから、自分はまだやったことがなくて自信がないけれども、しかし、喜び勇んでこの新潟に流されて来るのです。そして、その後を見てください。ここで五年流罪になってそれから稲田の方で二十何年。そして京都へ行ってそして京都でその後三十年位過ごされるのです。その実績を見てみますと今日見てきたようにそのお徳が全国津々浦々に輝いていて、そして、この親鸞聖人のお徳を讃える御旧跡の地を皆で褒めたたえて、私たちもそれに礼拝してきているのです。しかし、それはただ御旧跡を讃えるのではなく、そのことによって自分自身はどういうふうにかえたらいいのだろうか。「わが妻子ほど不便なることなし。それを勸化せぬは、あさましきことなり。」これを教化しないのはあさましいことである。「宿善なくは、ちからなし。」その人の宿善、その宿善がなければなかなかお念仏の人になることはできない。「わが身をひとつ、勸化せぬものが、あるべきか。」まず自分自身が念仏の人になる。つまり卵からヒヨコになって雛になって鶏に

なって卵を産むというような人になる。自分自身が一番大事なのだとっておるのです。自分自身が一番大事。だから辺鄙の群類は何かというと、結局自分自身なのです。自身自身が辺鄙の群類なのです。この自分自身を教化しないといけない。

自分自身の教化とは何なのか。それは聞法すること、勤行すること、念仏すること。聞法、勤行、念仏という事は私たちの先生は教えて下さっております。だから赤尾の道宗が言ったように、「一日のたしなみには、あさつとめにかかさじとたしなむべし。一月のたしなみには、御開山のいらっしやる近い所に行ってお話を聞きなさい。一年のたしなみには、御本寺つまり京都の本願寺の所に行つて報恩講にあつて一年に一回はそういう事をしなさい」と言つて、とにかく聞法、勤行、念仏という事が大事なのだ。それが本当に自分自身を教化する道なのだという事です。

「一日のたしなみには、あさつとめにかかさじと、たしなめ。一月のたしなみには、ちかきところ、御開山様ごかいさんさまの御座候ござまううところへまいるべしと、たしなむべし。一年の

たしなみには、御本寺ごほんじへまいるべしと、たしなむべし」

（『蓮如上人御一代記聞書』…『真宗聖典』八六四頁）

今本当に聞法、勤行、念仏という事が地に落ちているのです。だからここに十八名の人がおられるというのですが、その人たちだけでも聞法、勤行、念仏という事を復活して本当に「これ猶師教の恩致なり」といってありがとうございますと言ってやれるという事が大事なのです。

ところで、人を勧めるという時にですね、私の話を聞いて良い話を聞いて、私の話が良い話か皆さん何を思われるか知らないけれどもそういう話を聞いてきた。お前たちはとにかく仏前に参って光照寺にはひと月に一回お参りをしなければだめなんだよと言って聞かせるのではだめなんです。言って聞かせるのではなくまず自分がやらないとは動かないのですよ。だから山本五十六という人が言いました。「やってみせて 言っ
て聞かせて やらせてみて 誉めてやらねば 人は動かじ」と。いいですか、「やって

みせて 言つて聞かせて やらせてみて 誉めてやらねば 人は動かじ」と、だからそういう事をやらないといけない。ところがそれが上から目線というのがあるのです。私が良い話を聞いてきた。お前たちはまだそれをやっていないのではないか。だからそれをやりなさいと言つたのではだめなのです。それは頭を自分が下げないと人には通じないのです。自分が頭を下げた人だけがそういう仕事が出る。だから法然上人が自分のことをなんと言われたか。それは「愚痴の法然坊、十悪の法然坊」と言われたのです。自分は本当に愚痴しかない、本当に殺生、偷盜、邪淫、妄語、綺語、悪口、両舌、貪欲、瞋恚、愚痴の法然坊だと。しかし人は言つたのです。智慧第一の法然坊と言つたのです。しかし、自分自身の事は愚痴の法然坊、十悪の法然坊と言つたのです。親鸞聖人は自分のことを何て言われたか。「愛欲の広海に沈没し、名利の太山に迷惑して、定聚の数に入ることを喜ばず」と言われたのです。

悲しきかな、愚禿鸞、愛欲の広海に沈没し、名利の太山に迷惑して、定聚の数に

入ることを喜ばず、真証の証に近づくことを快たのしまざることを、恥はずべし、傷いたむべし、と。

（『教行信証』「信卷」：『真宗聖典』二五一頁）

つまり自分は愛欲と名利で正定聚のところに行くことを嫌がる。そういう存在だと言っている。私は分かった、だからお前たちに勧めてやるというのではだめなのです。自分が本当に教化された人は自分の頭が下がる。本当に申し訳ない私ですと言って頭を下げないと人は動かないのです。その点では本当に光照寺の皆さんが皆で力を合わせて、住職の留守を守って皆さんが力を合わせて光照寺の為に尽くして下さるといふ事を非常に喜ぶものです。本当に自分でやってみるといふ事です。自分の子供の一人でも動かしでみる。隣の人一人でも動かしでみる。親鸞聖人も越後で決して成功されたのではないと思うのですよ。しかし、それを継続一貫止めなかったのですよ。だから九十年の生涯を終えられた後に全国津々浦々に成果が溢れて私たちはその御旧跡を回って本当にあり

「これ猶師教の恩致なり」

がとうございましたと頭を下げる事ができるのです。
大変お粗末なことです。が私の話はこれで終わります。

あとがき

本書は光照寺旅行『善光寺・戸隠と親鸞聖人流罪の地を訪ねて』と題して、二〇一八年（平成三十年）十月十九～二十日の一泊二日の旅行（旅行幹事長・平山正三氏、幹事・淡海雅子氏、谷口正司氏）を企画した中で、初日の十月十九日に宿泊先の赤倉ホテルにて佐々木玄吾先生にご法話を頂いた記録です。

当日は、初日の旅程を終えて、ホテルに到着して間もなくのご法話でしたので、大変お疲れの中、貴重なご法話を頂戴しました。赤倉ホテルのロビーにあります大きいお内仏は、お念仏を届けていきたいとする創業者の心の現われに触れさせて頂きました。師匠法然上人と宗祖親鸞聖人が短い期間の出会いであったにも関わらず、流罪にあつてそれぞれが流罪地で生活を余儀なくされることになりましたが、お念仏の心をしっかりと受け止めた宗祖においては、知恩報徳のご精神で自らの立脚地を歩まれたことでしょう。「師教の恩致」を私たち一人一人がどう具体的に頂くかが問われたことでした。

佐々木先生には原稿に目を通して頂き校正賜りましたこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

ご法話のテープを原稿に起こして下さいました、護持会役員の淡海雅子様へ感謝申し上げます。

合掌

二〇一九年（令和元年）十月二十七日

光照寺 住職 池田孝三郎

「これ猶師教の恩致なり」



佐々木玄吾先生ご法話



赤倉ホテルお内仏前にて

光照寺旅行（信州・上越）
「これ猶師教の恩致なり」

佐々木玄吾先生講述

2019年（令和元年）10月27日

発行 真宗大谷派 弘興山 光照寺

事務局 〒331-0821

埼玉県さいたま市北区別所町102-2

電話 048-651-2781